

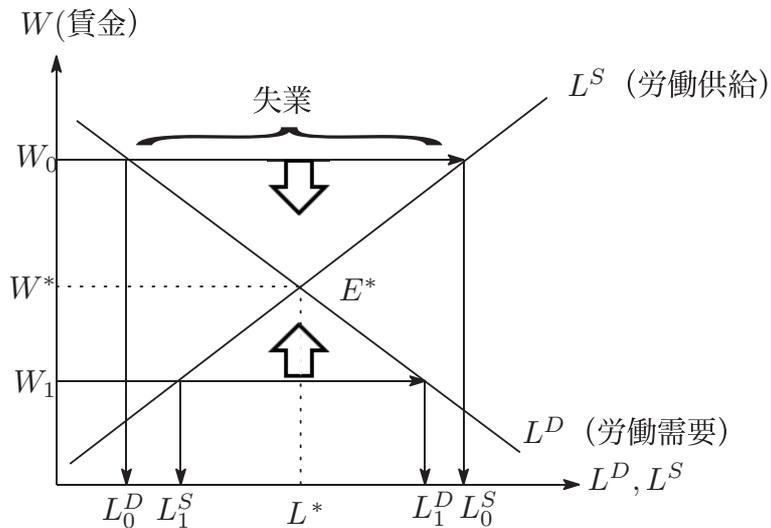
# サク単マクロ経済学一正誤表

2013年8月17日

サク単！マクロ経済学をご利用いただきありがとうございます。チェックが行き届かず、読者の方々にはお手数おかけして申し訳ございません。深くお詫び申し上げます。

## 1. 5 ページ

図1-1を以下のように訂正。



## 2. 10 ページ

図1-3のなかの  $Y = 60$  で取引される ( $Y^* > Y$  なので失業がいる) と追加する。

## 3. 14 ページ

解答で「貯蓄総額」はストック変数に訂正。

## 4. 23 ページ

解答で (xi)(xiii) を削除、(xiv) を加える。

5. 28 ページ

図2-2で縦軸に単位「(10億円)」を加える。(0を5つとって単位を(兆円)にしたほうが見やすいです。)

6. 36 ページ

2(1)(a)の解答は245でなく251。

7. 36 ページ

問題の国民経済計算の表の中の支出面の「財貨・サービスの」となっている部分を「財貨・サービスの輸出」に訂正。

8. 48 ページ

したから4行目の「経常」を「計上」に訂正。

9. 49 ページ

1行目の「そしてパン屋が作った～在庫としてとっていると考えます」までを次の文章に差し替え。

「p26で小麦が売れ残った場合小麦は最終生産物と見なされ在庫品と考えましたが、それと同様に今回のパン屋の売れ残りも在庫として取り置きしてあると考えます。」

10. 49 ページ

図3-1の図解のポイントで「社会上」を「会計上」に訂正。

11. 59 ページ

解答で(4) $Y = 60$  (5) $Y = 60, G - T = 0$  と訂正。

12. 60 ページ

(1)の表題は「効用関数と無差別曲線」ではなく「消費関数と乗数効果」に訂正。

13. 62 ページ

一番上の式 $c_1^2$ とあるのは $c_1$ の間違い(2乗がいらぬ)

14. 65 ページ

コラムの中の最後の式の $\Delta$ を $d$ に変更。つまり $(1 - c_1)\frac{dY}{dG} = 1$ となる。

15. 74 ページ

問題(3)で「 $Y_F = 100$ であったとする。」に変更。

16. 76 ページ

図4-3で縦軸上の $c_1$ だけ $C'$ に訂正。

17. 94 ページ

「(3) 限界消費性向の上昇 (= 限界貯蓄性向の下落) は IS 右シフト」と訂正。

18. 101 ページ

最後の行で「物価上昇率は一定」ではなく「物価上昇率 ( $\pi$ ) はゼロ」と訂正。

19. 107 ページ

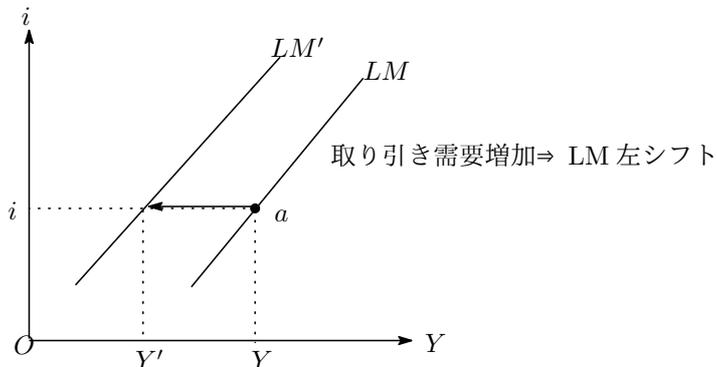
最後の式を  $\frac{M}{P} = L(i', Y')$  に訂正。その上の「図 5-12 では  $i$  から  $i'$  に減らす」ではなく「図 5-12 では  $i$  から  $i'$  に増やす」に訂正。

20. 109 ページ

上から 3 つ目の式で、 $\frac{M'}{P} = L(i, Y')$  に訂正。その 3 行下の「LM は LM' のように全体的に上にシフト」ではなく「全体的に下 (右) にシフト」に訂正。

21. 110 ページ

図 5-14 のグラフの傾きが逆。つまり次のように訂正。



22. 116 ページ

(1) で「(ii) 所得税減税 (iii) マネーサプライを増加させる」と (ii) と (iii) を逆にする。

(3) で、「LM が右上がり」ではなく「LM が水平」に訂正。

23. 117 ページ

6.1 の解答で (4) で「(i)(ii)(iii)(iv) すべて正しい」に訂正

24. 126 ページ

下から2行目の「同様に、第4象限のグラフの」から、次のページの2行目の「ISも右にシフトします。」を

「同様に、 $G$ を一定のまま、所得税 $T$ を下げるとISは右にシフトします。」に変更。

25. 127 ページ

上から4行目「名目利子率 $i$ は $i'$ に下落し」に訂正。

26. 129 ページ

(4)の解答の下から3行目を「(iv)は、LMが垂直なときが完全なクラウディングアウトになるので、正しいです。したがって(i)(ii)(iii)(iv)すべて正解となります。」に訂正。

27. 130 ページ

問題で(7-3)式を $I = 100 - 4r$ 、(7-8)式を $L = -295 + Y - 8i$ に訂正。

28. 131 ページ

(4)の問題の2行目で「金融政策だけ」ではなく「財政政策だけ」と訂正。

29. 132 ページ

(7-11)式は、 $Y = 600 - 20i$ に訂正。

30. 133 ページ

図7-1のIS曲線の式は、 $Y = 600 - 20i$ に訂正。

31. 149 ページ

下から5行目を「 $\pi = \frac{p_1}{p_0} - 1$ と変形して、 $\frac{p_1}{p_0} = \pi + 1$ にとすれば、」に訂正。

32. 166 ページ

コラムで、日銀の当座預金口座には金利がつかないとあるが、それは2008年までの話で、「2008年の補完準備預金制度のもとで、法定準備率を超える預金には0.1%の金利がついています（つまり法定準備金は無利子です。日銀の当座預金口座に民間の銀行が預金を振り込めばそのうち法定準備率の部分は自動的に法定準備金としてカウントされています。）。この金利を下げると民間銀行は貸し出しが得となるので、貸し出しを増やそうとすることから金融緩和の効果が大きくなります。現状では日銀はいくら買いオペを行ってもこの金利のため、無担保コールレートが0.1%以下には下がりません。そこで2013年6月現在、この金利を再び0に戻すことでさらなる金融緩和を目指すことが検討されています。」と今のところ変更。

33. 184 ページ

下から 6 行目の  $CC = \frac{cc}{DP}$  は、 $CC = \frac{CC}{DP}$  に訂正。

34. 191 ページ

図 1 1 - 4 の  $M^O = kpY_F$  を、 $M^D = kpY_F$  に修正

35. 196 ページ

「フィッシャー方程式を使って」のコラムの中の政策反応関数を

$$i = \pi + r + \alpha(\pi - \pi^*) + \beta \left( \frac{Y - Y^*}{Y^*} \times 100 \right) \quad \alpha > 0, \beta > 0$$

に訂正。その後にある解説の GDP ギャップは  $\frac{Y - Y^*}{Y^*}$  に訂正。

36. 198 ページ

図 1 2 - 1 の完全失業者の数は 2600 万人ではなく 260 万人。

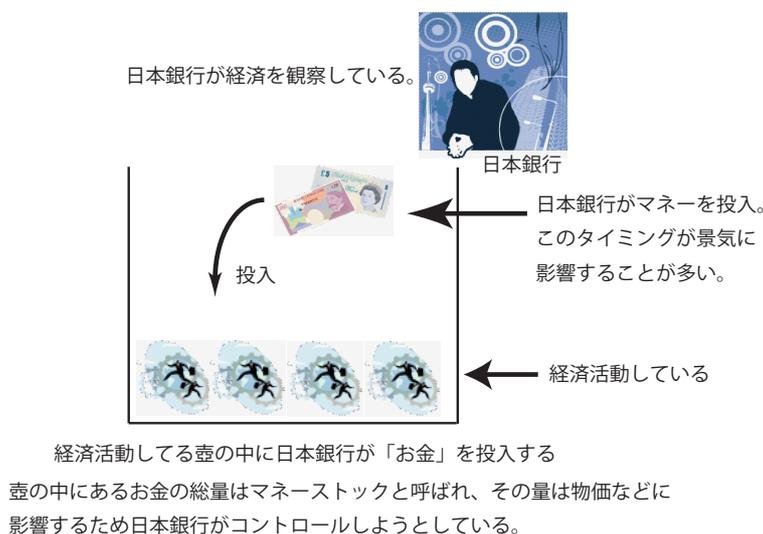
以下は、わかりやすいように修正した箇所

37. iv ページ（前書きのまえのマクロ経済学の特徴のところ）

「分類して理解する」という点についてですが、学問における物事の理解の基本はどのように物事を分類していくか？という点にあります。われわれは経済現象を分かりたいわけですが、われわれが「分かった！」と思える瞬間はどのような時か考えてみてください。例えば「親とは何か？」といわれたとき、「親とはあなたを産んでくれた人です」と説明されると「親とは何か分かった！」と思えるでしょう。これは人間を自分を産んでくれたかどうかで分類して「人間のうち産んでくれた人＝親、産んでくれなかった人＝親でない」という理解をしたことを意味します。もしご両親である〇〇さんがどこかの社長さんをされていたら、社長としての〇〇さんは、私の親としてのみた〇〇さんとは違った側面からとらえることができます。これと同じように、学問による現実の理解の基本は、現実を上手く理解できるように社会・経済現象を適切に（＝真実の姿ができるだけ分かるように）分類していくことなのです。

38. 18 ページ

マネーストックのイメージ図は図1-4を参考にしていますが次のようなイメージです（これは間違いというわけではありません。）



39. 72 ページ

上から3行目外国との貿易を考慮する基本モデルでは、「輸出  $EX$  はどちらかといえば海外の経済規模により依存し、国内の経済規模は輸入  $IM$  の方が強く依存する現実を踏まえて、輸出  $EX$  は一定と仮定するのが普通です」と詳しくする。

LM 曲線は金融市場の分析ですが、金融市場はとても複雑に動くので難しいです。例えば、金利が上がる理由も今から学ぶように「予想インフレが上がったから」「他の資産に乗り換えようとして売られたから」など状況によって様々な理由があります。金融市場については特にそうですが、今のフェラーリの例で説明したような「エピソード」をひとつずつ集めていくことが理解のコツです。「エピソード」はとても単純化された小話ですが経済の一面の出来事を明確に表しています。それはとてもわかりやすいわけですが、一面のお話に過ぎないので1つの「エピソード」がいつも成り立つことはありません。いろいろな「エピソード」を携えておけば、現実が現れたときそれに照らして経済をみるのでかなり見通しが明るくなります。フェラーリの例も1つのエピソードですし、IS-LM モデル自体もひとつのエピソードなのです。「エピソード＝モデルによって現実をみる」というスタンスをもって学んでいってください。

☆覚えておくべきインフレにまつわるエピソード☆

エピソード1：インフレ＝貨幣価値の下落

みかん1個＝100円 ⇒ みかん1個＝200円（100円の価値が半分になっているので、インフレとは貨幣価値の下落のことです。みかんの価格が200円と高くなっているのに貨幣の価値が上がったと勘違いすることが多いです。これはみかんの価値が2倍（すなわち貨幣価値が半減）になったという意味です。インフレは、貨幣価値 vs モノの価値という対立で見る点に注意してください

「〇〇観光は値下げしました！我が社は良いデフレです」（2000年頃の広告）↑これは間違っています。デフレ＝物価下落は、1社だけの話ではないのである企業の値下げはデフレとは呼びません。〇〇観光が値下げしたのは、値下げした方が他の店から客を奪えるというミクロ的な視点なので、他社の観光会社はむしろ良い製品をつくって値上げしているかもしれません。物価は市場全体の平均価格なので1社の価格変更とは概念が異なるわけです。上の例はみかんだけしかない社会を想定してください。

エピソード2：インフレと借金

時計1本10000円の時10000円を友人から借りて僕は時計を買った。半年後、僕は友人に10000円を返したがインフレで時計は20000円になっていた。僕からの返済で時計を買おうとしていた友人は時計を買えなかった。

教訓：インフレになると借金している人は得インフレになるとお金を貸している人は損

### エピソード3：インフレと消費～借金国ギリシャがフェラーリ保有台数世界一

ギリシャはインフレ国なので、お金を稼いだら直ちにモノを買わないと変えなくなってしまうため、フェラーリの保有台数が世界一になっています。

⇒このエピソードからインフレになると消費が増える事を理解してください。エピソード1からも100円の時にみかんを買った方が得なことがわかります。消費と同様、投資も増えます。

☆このエピソードは、フィッシャー方程式から、インフレになると実質利率が下がるので、金利が下がると貯金が減るために消費が増え、一方投資は金利が下がるので増えるという説明と同じです。

### エピソード4：インフレとマネーストック～ラドフォード博士のナチス強制収容所での体験<sup>1</sup>

ラドフォード博士が収容された収容所では、ドイツ軍と赤十字からチーズ、肉、ミルク、ジャム、たばこなどが各人に同量配布された。みな同じ量のミルクやジャムがほしいわけではなかったため、捕虜の間で交換が行われはじめた。当初は交換比率は囚人間でまちまちだったが次第に同じ比率で取り引きされるようになった。

交換比率が異なれば、高いところで買って安いところで売る人ができます。この行為は裁定取引とよべれます。裁定されるとどこで買っても価格は同じ状態になります。

そして、チーズ1個＝たばこ7本、肉100g＝たばこ10本のように、たばこが交換の基本となっていった。

たばこは、ある程度保存がきくし、小さく、また、たばこを常にほしがるとが当時は容易に見つかった（＝多くの人の欲望の対象）のがその原因と考えられる。これは貨幣の性質そのままである。

（事件）ラドフォード博士の観察によると、タバコ貨幣には大きな欠点がありました。収容所では、タバコは通常、週に1回ずつ配給されます。貨幣であるタバコが大量に配給されると、タバコの本数で表現される物価は急激に上昇しました。

例：チーズ1個＝タバコ7本⇒（タバコの配給）⇒チーズ1個＝タバコ 20本

逆に、タバコはどうしても吸われて減ってしまうため、配給が停滞すると、貨幣が減少して物価が下がるデフレーションとそれによる取引縮小が起きました。

例：チーズ1個＝タバコ20本⇒（タバコが吸われた）⇒チーズ1個＝タバコ 7本

世の中にある貨幣の総量はマネーストック（＝マネーサプライ）と呼ばれます。「マネーストックがふえると物価が上がること」を理解してください。マクロ経済学のモデルの多くは、

<sup>1</sup>このエピソードは翁邦雄先生の『貨幣と中央銀行の歴史からみた物価と金融政策』を参考にさせていただきました。

「マネーストックが上がると物価が上がる」ものすでに仮定されて議論されているものが多く、その仮定は、こうした小話に支えられているので、その意味でも覚えておくに有益です。

#### エピソード5：物価と予想

「ガソリンが品不足となり値上がりするという噂が流れ、みんながこぞってガソリンを買いに行ったため、実際に品不足となりガソリン価格が値上がりした。ガソリンが品不足となるという噂はガセネタだったが予想が現実になった。」

このように、予想するだけで現実になることを自己実現的予想 (self-fulfilling prophecy) と呼びます。物価もこれと同様です。「物価が上がると予想されたため、消費や投資が増えた。結果として需要が高まりモノの価格が上昇した。」(ほしい気持ち (= 需要) が増えると価格が上がります。ドラクエがほしいと殺到すると値段が上がる状況を思い浮かべてください)

#### エピソード6：インフレと名目利子率

フィッシャー方程式から

実質利子率 = 名目利子率 - 期待インフレ率

ですが、期待インフレ率が高まると我々の実質的な儲けである実質利子率は下がります。例えば、金利5%の時100円を預けると5円の利子が付き105円を手にしませんが、5%のインフレが同時に起こると、105円の価値が5%下がっていますのでほぼ利益はありません。すなわちインフレ予想があると我々としても名目利子率がインフレ予想を上回っていなければ他の投資機会を探した方が得することが多くなり、銀行も預金確保のため名目利子率を上げざるを得なくなります。

教訓：インフレになると名目利子率も上がりがちである。

(これは現在のインフレターゲットの弊害として注視されているので覚えておくに良いでしょう)